

2017年4月15日付 新潟日報朝刊「柏崎原発敷地に活断層か」について

- 当社は、古安田層は約 20 万年前から 30 数万年前の地層、刈羽テフラは約 20 万年前の火山灰層と評価しており、敷地内に活断層はないと評価しております。
- 地層の堆積年代の評価にあたっては、地層に挟み込まれている火山灰等、テフラと称されるものを用いています。これは、火山灰が、過去の火山活動の研究から、その堆積年代が評価されているからです。
- 古安田層には、約 20 万年前の刈羽テフラと呼んでいる火山灰や、約 24 万年前の阿多鳥浜テフラ、約 33～34 万年前の加久藤テフラが挟み込まれています。このことから、約 20 万年前から 30 数万年前であると評価しています。また、その上に重なる地層には、約 13 万年前の中子軽石というテフラがあり、このことも古安田層の年代と整合します。
- 刈羽テフラの年代については、火山ガラスの分析を行い、下北半島沖で確認され既に年代が約 20 万年前と評価されているテフラと、同じであるという評価結果が得られています。
- このように、古安田層の年代は、刈羽テフラ、阿多鳥浜テフラ、加久藤テフラといった複数のテフラの年代を根拠にしっかりと評価しています。
- これらの評価結果については、原子力規制委員会の審査会合にてご説明し、概ね妥当と評価いただいております。

平成 28 年 9 月 30 日 (原子力発電所) 資料 4-2-3 柏崎刈羽原子力発電所 6 号炉及び 7 号炉 敷地近傍の地質・地質構造について

http://www.tepco.co.jp/about/power_station/disaster_prevention/pdf/nuclear_power_160930_04.pdf